

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
令和2年度8月

○ 概要

- (1) 令和2年8月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は5,956億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲5.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,711円（伸び率+3.1%）であった。（→P.1~2）  
調剤医療費の内訳は、技術料が1,502億円（伸び率▲4.3%）薬剤料が4,441億円（伸び率▲5.6%）、薬剤料のうち、後発医薬品が896億円（伸び率▲2.8%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,804円（伸び率+1.5%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.71種類（伸び率▲1.6%）、28.4日（伸び率+10.0%）、75円（伸び率▲6.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,559億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲260億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の622億円（伸び率▲5億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+15億円（総額371億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,559億円 (▲260億円)	39 その他の代謝性 医薬品(622億円)	21 循環器官用薬 (621億円)	11 中枢神経系用薬 (609億円)
0歳以上 5歳未満	14.6億円 (▲7.8億円)	44 アレルギー用薬 (5.9億円)	61 抗生物質製剤 (2.0億円)	22 呼吸器官用薬 (1.7億円)
5歳以上 15歳未満	68.4億円 (▲3.4億円)	44 アレルギー用薬 (24.9億円)	11 中枢神経系用薬 (21.2億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.4億円)
15歳以上 65歳未満	1,264億円 (▲61億円)	11 中枢神経系用薬 (281億円)	39 その他の代謝性 医薬品(236億円)	21 循環器官用薬 (189億円)
65歳以上 75歳未満	850億円 (▲62億円)	39 その他の代謝性 医薬品(180億円)	21 循環器官用薬 (171億円)	42 腫瘍用薬 (119億円)
75歳以上	1,363億円 (▲126億円)	21 循環器官用薬 (257億円)	11 中枢神経系用薬 (207億円)	39 その他の代謝性 医薬品(199億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,711円（伸び率+3.1%）で、最も高かったのは京都府（11,461円（伸び率+2.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,111円（伸び率+0.4%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+13.5%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲1.5%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標）注)	80.9 %	+2.4 %
薬剤料ベース	20.2 %	+0.6 %
後発品調剤率	75.9 %	+1.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	57.4 %	+2.7 %

注) [(後発医薬品の数量) / ((後発医薬品のある先発医薬品の数量) + [(後発医薬品の数量)])] で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.8 %	+10.3 % (100歳以上)	▲22.7 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	28.7 % (100歳以上)	11.0 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.9 %	85.8 % (100歳以上)	72.8 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	778億円 (▲36億円)	21 循環器官用薬 (240億円)	11 中枢神経系用薬 (120億円)	23 消化器官用薬 (102億円)
0歳以上 5歳未満	4.4億円 (▲2.0億円)	44 アレルギー用薬 (2.4億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1億円)	61 抗生物質製剤 (0.4億円)
5歳以上 15歳未満	12.6億円 (▲1.1億円)	44 アレルギー用薬 (8.0億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6億円)	22 呼吸器官用薬 (1.0億円)
15歳以上 65歳未満	258億円 (▲19億円)	21 循環器官用薬 (69億円)	11 中枢神経系用薬 (50億円)	23 消化器官用薬 (30億円)
65歳以上 75歳未満	188億円 (▲10億円)	21 循環器官用薬 (73億円)	23 消化器官用薬 (23億円)	39 その他の代謝性 医薬品(19億円)
75歳以上	315億円 (▲3億円)	21 循環器官用薬 (98億円)	11 中枢神経系用薬 (50億円)	23 消化器官用薬 (48億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,462円	1,877円(北海道)	1,209円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.8 %	+13.4 % (沖縄県)	+0.3 % (福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.9 %	88.7 % (沖縄県)	76.3 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	23.8 % (鹿児島県)	17.5 % (京都府)
後発医薬品調剤率	75.9 %	82.5 % (沖縄県)	71.0 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	57.4 %	65.1 % (沖縄県)	53.4 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年8月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。